

# 平成23年度 地域づくり総務大臣表彰

## 受賞者の概要

平成24年 1月 6日

## 大賞

宮城県南三陸町	1
---------	---

## 優秀賞

岩手県遠野市	2
久慈 浩介【岩手県二戸市】	3
金城 笑子【沖縄県大宜味村】	4

## 団体表彰

特定非営利活動法人 ねおす【北海道札幌市】	5
八戸せんべい汁研究所【青森県八戸市】	5
特定非営利活動法人 遠野まごころネット【岩手県遠野市】	6
特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター【宮城県仙台市】	6
特定非営利活動法人 石巻スポーツ振興サポートセンター【宮城県石巻市】	7
特定非営利活動法人 フェアトレード東北【宮城県石巻市】	7
いきいき深山郷づくり推進協議会【山形県白鷹町】	8
逢瀬ゆめくらぶ【福島県郡山市】	8
浪江焼麺太国【福島県浪江町】	9
おらが湊鐵道応援団【茨城県ひたちなか市】	9
取手アートプロジェクト実行委員会【茨城県取手市】	10
八王子センター元気【東京都八王子市】	10
十日町市地域おこし実行委員会【新潟県十日町市】	11
全日本大学女子野球選手権大会魚津市実行委員会【富山県魚津市】	11
特定非営利活動法人 田原菜の花エコネットワーク【愛知県田原市】	12
被災地NGO協働センター【兵庫県神戸市】	12
特定非営利活動法人 豊かな食の島 岩城農村塾【愛媛県上島町】	13
株式会社 赤岡青果市場【高知県香南市】	13
到津の森公園市民ボランティア森の仲間たち【福岡県北九州市】	14
財光寺農業小学校【宮崎県日向市】	14
宮古織物事業協同組合【沖縄県宮古島市】	15

**地方自治体表彰**

岩手県一関市 . . . . . 16  
岩手県住田町 . . . . . 16  
宮城県大崎市 . . . . . 17  
宮城県川崎町 . . . . . 17  
東京都江戸川区 . . . . . 18  
静岡県富士宮市 . . . . . 18

**個人表彰**

新井 偉夫【宮城県石巻市】 . . . . . 19  
松井 利夫【神奈川県相模原市】 . . . . . 19  
向峠 智隆【石川県能登町】 . . . . . 20  
高橋 幸照【三重県多気町】 . . . . . 20  
安川 恵造【兵庫県太子町】 . . . . . 21

**奨励賞**

財団法人 出雲市教育文化振興財団（出雲芸術アカデミー）【島根県出雲市】 . . . . . 22

## 宮城県南三陸町

## 概要

風光明媚な景観と四季折々の魚介に恵まれ年間100万人の観光客で賑わっていた。東日本大震災後は、月1回の南三陸復興市を開催し、被災者同士の再会の場にもなっている。また、地域ガイドの取り組みの一つとして「語り部」が始まり、主に被災地学習を希望する学生や企業研修に「被災地学習プログラム」を実施。防災に関する”学び”を前提に全国から誘致をスタート。



## 【南三陸町の概要】

宮城県北東部、本吉郡の南端に位置し、面積は16,374ha、人口は17,431名(平成22年国勢調査速報値)である。東は太平洋に面し、三方を山に囲まれ海と山に恵まれた豊かな自然環境を形成しており、沿岸部はリアス式海岸特有の景観を有する。

昭和35年5月に発生したチリ地震津波を教訓に、災害に強いまちづくりを推進するとともに、豊かな自然と基幹産業である水産業を基軸とした観光客の誘致を促進することで町の活性化を図ってきた矢先、平成23年3月11日東日本大震災に見舞われ、甚大な被害が生じている。

## 評価された点

- 被災地の中でも被害が大きかった地域が、自立する努力をしていることを評価。
- 観光、漁業を中心としたまちづくりを住民主体で行い、成果を上げている。
- 被災地でありながら、「被災地学習プログラム」を実施し、全国から防災学習の拠点として注目されている。
- 震災で大きな被害を受けたにも関わらず、南三陸復興市は、震災後間もなく活動を始めたこと、さらに全国に向けて情報を発信し、被災者同士の再開の場としての役割も担っているところが評価できる。
- 「彩プロジェクト」により、女性たちがワークショップをきっかけとして、地域コミュニティの再生や、今後の起業に取り組んでいる。
- 平成19年DCキャンペーンを機に取り組んだ地域づくりが、震災復興活動に結びついている。
- 甚大な被害を受けながら、復興に向け一つになろうとしている点にエールを送りたい。
- 甚大な被害を受けた南三陸町。「全てを亡くしました」と語る町人が、以前続けていた町ガイドを全く姿を変え復活させた。この活動は共に学ぶ「学びの場」として社会的に大きな影響力を持っていくと思う。
- 外からの関心を高め、うまく地域につなげている。
- 震災以前からの地域振興策も、独自のアイデアが活かされており評価出来るが、震災後いち早く、何も無い中で活動を再開した地域の絆の強さを高く評価する。

## 岩手県遠野市

### 概要

遠野市では、宮古市、釜石市、大船渡市など沿岸市町へ陸路で1時間、ヘリで約15分で移動できる立地環境から、宮城県沖地震に備え、自衛隊・警察・消防・医療機関・住民などと合同訓練を実施してきた。東日本大震災では、岩手県における沿岸被災地支援基地として、沿岸被災地への支援活動を展開し、復旧及び復興に寄与するとともに、被災者の生活再建に尽力した。

#### 【遠野市の概要】

岩手県南東部の、内陸と沿岸の中間地点に位置し、内陸にも沿岸にも通じる道路網が整備された結節点となっている。人口は30,064人(H23.8.1現在)、10,759世帯(H23.8.1現在)。

東西、南北ともに約38km、総面積は825.62km<sup>2</sup>。隆起準平原といわれる北上高地の中南部に位置し、早池峰山(標高1,917m)を最高峰に標高700m～1,000mの起伏のなだらかな高原群が周囲を取り囲み、市域の中央に遠野盆地が広がり、北上川の支流である猿ヶ石川は、早瀬川、小友川、宮守川、達曽部川など大小多くの河川と合流しながら西走し、それらの河川沿いを中心に耕地と集落が形成されている。



### 評価された点

- ・非常事態を想定した訓練が、現実に役立ったことを評価。
- ・ICTをいかした遠隔健康支援のノウハウをいかし、地域の様々な主体と効果的に協働し、被災地の支援を積極的に行っている。
- ・東日本大震災直後から被災地の復旧・復興とともに、被災者の生活再建支援に大きく寄与している。
- ・震災以前に訓練を重ねてきたことで、後方支援拠点として効果的に活動できたことは、評価できる。
- ・震災後の迅速な支援体制構築と、継続的な活動が評価できる。
- ・日頃からの訓練を実施してきており、今回の被災時に実力を発揮することができた。
- ・平成19年からの「後方支援拠点施設設備構想」が、今回の震災の際、大きく寄与した。その着想力と行動力は高く評価したい。
- ・住民のボランティアネットワークとの連携も秀逸。

## 久慈 浩介

岩手県二戸市

## 概要

家業である酒造業のかたわら青年会議所活動等を通して地域に密着した活動のリーダーとして活躍。東北初のNPO法人によるコミュニティFMの開局に尽力し、番組の企画運営及びパーソナリティとして携わる。東日本大震災発生後、全国的な自粛ムードの中「ハナサケ！ニッポン！」のキャッチフレーズを掲げ、動画サイトで東北の物産品の応援消費を働きかけ大きな反響を呼んだ。

## 【経歴】

昭和47年 岩手県二戸市生まれ  
 平成7年3月 東京農業大学農学部醸造学科卒業  
 平成7年4月 株式会社小泉商店で研修  
 平成7年12月 久慈酒造合名会社 営業課長兼製造部長  
 平成11年2月 岩手めんこいテレビ 番組審議委員就任  
 平成13年10月 株式会社南部美人 製造部長  
 平成18年10月 株式会社南部美人 専務取締役  
 現在に至る

## 【二戸市の概要】

平成18年1月1日に二戸市と浄法寺町が合併して誕生。岩手県内陸部の北端に位置する。

北上山地、奥羽山脈からなる山地、丘陵地が約9割を占め、折爪馬仙峡県立自然公園をはじめ、金田一温泉など豊かな自然環境に恵まれており、市街地は南北に走る馬淵川の河岸段丘上に形成されている。葉たばこや漆塗り、天台寺が特に有名。

面積は420.31km<sup>2</sup>、人口は29,717人(H22国勢調査速報値)。

## 評価された点

- ・家業のかたわら、地域の情報発信を実施。教育機関との連携も活発に行っている。
- ・東日本大震災後の「ハナサケ！ニッポン」の取り組みは、全国レベルで広がり、被災地の支援に繋がっている。
- ・39歳と若く、これからの活躍が期待できる。
- ・東北の物産品の応援消費をいち早く呼びかけるフットワークと、メディアを活用した非常時の対応を高く評価。
- ・震災前からコミュニティFMを通じて地域おこしに貢献。今後さらに活躍が期待される。
- ・青年活動の輪を継続的に、本業の「業」を極めながら、ソフト事業として地域外にも裾野を広げている。
- ・リーダーとしての役割を果たしながら、今後も東北のビジネスリーダーとして、支援が本物の持続型へ展開するための役割を担っていると考える。
- ・何より、若さとバイタリティー、柔軟な発想による独自性を感じ、今後の可能性、発展性に期待出来る。



## 金城 笑子

沖縄県大宜味村

## 概要

地域外から移住した管理栄養士の視点から、地域の高齢者が食用に栽培していた伝統的な島野菜を使った郷土料理「長寿膳」を看板メニューに「笑味（えみ）の店」を開店。村の特産品のシークワサー果汁を原料とした調味料「笑味タレ」を開発し全国販売。日本一長寿宣言をした大宜味村でスローフードの観点に着目し、取り組みを続けている。

## 【経歴】

- 1948年 沖縄県本部町備瀬生まれ
  - 1969年 女子栄養短期大学卒
  - 1973年 学校栄養職員に採用される
  - 1990年 「笑味の店」オープン
  - 1998年 沖縄県生活指導士認定
  - 2001年 「沖縄国際長寿会議」に伝統料理出展
  - 2007年 シークワサー果皮精油高含有物の抽出法およびその粉末特許取得
- 現在 社団法人沖縄県栄養士会会員、沖縄県農山漁村生活研究会会員、北部農業士会山原女性農業者の会会員

## 【大宜味村の概要】

大宜味村は沖縄本島北西部に位置し、総面積63.45km<sup>2</sup>と県内第9番目の広さを持ち、人口は3400人ほどの村である。主要な農産物としてシークワサーがあり、現在その商品を発信することで、産業の振興を目指している。高齢化率は30%と高いが、平成5年の「日本一長寿の村宣言」にもあるように、村の高齢者が老いてますます意気盛んであることに誇りをもっていることが自慢である。



## 評価された点

- ・域外の人が地域を動かしている例は多いが、具体的な成果を挙げていることを評価。
- ・笑味の店を核として、体験型の食育とグリーンツーリズムを20年以上展開している。
- ・活動への高齢者の参加にも成功しており、高齢化のすすんだ地域再生活動の参考となる取り組みだと考える。
- ・スローフード推進の第一人者。食育とグリーンツーリズムへ発展させたことにより、活動の範囲が広がっている。高齢者雇用に力を入れていることも評価できる。
- ・20年以上前から所謂「スローフード」に着目した先見性と、高齢者の活性化につなげている点を高く評価。
- ・専門性を生かし、地域の資源を活用した商品化を通して、地域活性化に取り組んでいる点を評価。
- ・地域資源を外からの目で再評価して、地域の人に再認識してもらうことが、重要な作業だと思う。今後も幅広く活動をアピールし、交流のツールとして、「食」の厚みをより多くの人に拡大してほしい。

## 特定非営利活動法人 ねおす

北海道札幌市

### 概要

登別市ネイチャーセンターふおれすと鉱山の設立と運営において、行政、NPO、市民が協働するシステムを構築、コーディネートを行う。エコツーリズム、子どもの自然体験活動等を通して、住民わずか5名の廃村鉱山町に2万人を超える交流人口をもたらした。



### 評価された点

- ・長年活動を継続し、エコツーリズム、子どもの自然体験学校などで2万人以上の交流人口をもたらしている。炭鉱町の再生の範となる取り組みであろう。
- ・全国のエコツーリズム、自然体験主催団体のモデル団体。初期から人材育成も手掛け、リーダー達を輩出している。
- ・「ふおれすと鉱山」での市民参加型ネイチャーセンターは、全国への新たなモデルとなりうる。

## 八戸せんべい汁研究所

青森県八戸市

### 概要

郷土料理「八戸せんべい汁」という地域資源を発掘し、情報収集・情報発信に先駆的に取り組むことで、地元への誘客、地元飲食店の活性化に貢献した。また同時に、「B-1グランプリ」の発案・企画、「B級ご当地グルメでまちおこし団体協議会」の立ち上げを行うなど、食でまちおこしをする団体間の横の繋がりを強化し、B級グルメブームを巻き起こした立役者でもある。



### 評価された点

- ・全くローカルの食を、全国的に展開できる地域資源として認識をさせてくれた取り組み。昨今の食による地域づくりの嚆矢ともいえる取り組みである。
- ・B級グルメブームの立役者というだけでなく、震災への支援にいち早く取り組んだフットワーク、まとまりを高く評価。
- ・今や50万人もの集客があり、国民的イベントと言っても過言ではない「B-1グランプリ」を提案したのが、八戸せんべい汁研究所であり、食のまちおこしの全国的ムーブメントは、「じる研」なくしてはあり得ないもので、これまで表彰対象にならなかったのが不思議なくらいである。



## 特定非営利活動法人 遠野まごころネット

岩手県遠野市

### 概要

東日本大震災後、いち早く市民有志が遠野市社会福祉協議会を核として結集し、「被災地支援ボランティアネットワーク」を発足。当時からの相互の合言葉的愛称であった「遠野まごころネット」に込められた思いが、公共性を高め、NPO法人化した現在も団体の活動の根底に通っている。遠野市の歴史が培ってきた人的・社会的資源をフル活用し、官民共同で取り組んでいる。



### 評価された点

- ・民間の自主的活動が、官を動かして共同する事例として評価。
- ・東日本大震災後、迅速に広範囲なネットワークを構築し、多数の団体・個人と連携して、支援活動を可能にしたことや、これによって市民の交流も活発になったことが評価できる。
- ・副次的には、支援活動に遠野を訪れたボランティアが、その後観光客として遠野を訪れており、地域経済にも効果が見られる。
- ・地域の絆や知恵を、沿岸部の被災地支援につなげている点は、高く評価できる。
- ・現地では、全国からの様々な支援のプラットフォームになっており、今回の被災地支援の取組みとしては、なくてはならない存在。
- ・後方支援の実働部隊として、「ヒト」・「モノ」・「情報」の中心基地としての役割を果たし続けている。
- ・これまでの地域づくりの成果としての情報量や人的蓄積が発揮され、細部に渡る手立て等、様々なノウハウがこの地に集中されることにより、今後一層、他地域への貢献が大きくなると考えられる。

## 特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

宮城県仙台市

### 概要

市民セクター、市民社会の発展のために活動を行う数少ない「中間支援組織」として、仙台市、多賀城市、名取市など4拠点において市民公益活動支援を行う。東日本大震災以降は、「NPO/NGO支援情報ブログ」の開設や「みやぎ連携復興センター」の立ち上げ、「大震災NPOネットワーク会議」の開催などにより、企業、自治体、NPOのコーディネートや情報提供を行っている。



### 評価された点

- ・震災後の数多くの復興活動の代表として評価。
- ・NPO法人として多角的に活動し、その実績をベースに震災後の復興に寄与した。
- ・日本を代表するNPO支援センター。これまで以上に、震災後の地域再生・復興の中心的役割を担うことが期待されている。
- ・東北地域の市民活動の基盤づくりの立役者であり、今回の東日本大震災においても、彼らが地道に支援してきた団体や地域が、大きな役割を果たしている。
- ・震災後の対応として、まとめ役として、うまく活動している。

特定非営利活動法人 石巻スポーツ振興サポートセンター

宮城県石巻市

概要

「いつでも、どこでも、だれでも」スポーツを楽しめるまちづくりをめざし、地域の子供達や障害者を対象としたスポーツプログラム等を実施することで、スポーツ弱者への支援や高齢者の孤立化防止に取り組んでいる。また、震災後は、被災児童対象のスポーツ遊び提供事業や被災児童に運動具を贈る活動により、被災地復興と地域活性化に貢献している。



評価された点

- ・まちづくりの共通要素、スポーツに着目して、子供達から高齢者、障害者の連携を進めて来た。
- ・多くの実績を残している点が評価できる。



特定非営利活動法人 フェアトレード東北

宮城県石巻市

概要

フェアトレード商品の普及活動とともに、障がい者や高齢者、ひきこもり・ニートなどを対象としたソーシャルファーム事業などを行い、地域住民と協働して社会的弱者の雇用支援に取り組んでいる。震災後は、被災地で身寄りのない在宅避難者や行政の支援の届きにくい半島部の避難者などの被災弱者に対し、巡回訪問を行うなど、継続した支援を行っている。



評価された点

- ・日本で普及が十分ではないフェアトレードを推進する期待を込めて評価。
- ・ソーシャルファーム事業は、障害のある方や高齢者などの社会的弱者の雇用を創出し、新しいビジネス形態としても評価できる。
- ・東日本大震災後、障害のある方へのきめ細やかな支援は、地域にとって大きな効果があったと見られる。
- ・ソーシャルファーム事業推進で培った経験による、震災後被災者弱者支援の取り組みは高く評価できる。
- ・自身の経験を基に、地に足がついた形で社会的弱者支援を積極的に行っている点を高く評価。
- ・被災弱者への取組みも評価したい。



## いきいき深山郷づくり推進協議会

山形県白鷹町

### 概要

県指定無形文化財の深山和紙を地域ぐるみで伝承保存している。原料の栽培から収穫、和紙生産、技術伝承まで協議会員で行う。また、町内工芸をPRする「しらたか工芸体験まつり」の開催、農家民宿「のどか村」の運営支援、耕作放棄地の解消による農村環境保全等に取り組む、交流人口の拡大を図っている。

### 評価された点

- ・衰退していく伝統工芸を、単純に復活させるだけでなく、地域全体の発展に活用していることを評価。
- ・伝統工芸と農業を核に、丁寧に交流を進めている良い例。
- ・和紙を原料から一貫して栽培している地域は、本当に少なくなっている。地域ぐるみの取組みは、日本の伝統産業を守る上で、大変有意義である。
- ・貴重な「素材から生産まで」、そして「人材育成から集落をあげての活動」としての役割を果たす和紙産地である。
- ・集落全体が、産地を通じて世代を越え、地域を越えてネットワークを強めており、コミュニティービジネスとしての役割も高い。



## 逢瀬ゆめくらぶ

福島県郡山市

### 概要

逢瀬町の稲作農業従事者により、平成7年に設立。農業体験、夏祭り、他団体との連携・協力を3つの柱とし、地域の農業資源を活かした里山ならではの各種イベントを開催している。ホタル鑑賞会や夏祭りでは、首都圏からの参加者もあるなど、町内外に活動が認知されている。地産地消や食育などに早くから取り組み、自主財源のみで地域の農業資源活用を図っている。



### 評価された点

- ・官依存になりがちな地域振興を、民主導で行っている活動を評価。
- ・規模は小さいが、自主財源のみでやっているところがすばらしい。
- ・農業の資源活用も、地域にピッタリあっている。

## 浪江焼麺太国

福島県浪江町

### 概要

浪江町商工会青年部が主体となり、平成20年に設立。「食による街おこし」を掲げ、「なみえ焼そば」をご当地グルメとしてPRし、平成22年にB-1グランプリ初出場を果たす。焼きそばをメインにした地域PR活動を行い、町外及び県内外から観光客を招致して交流人口の増加に寄与している。



### 評価された点

- ・B-1グランプリ出場を機に町が活性化し、震災・原発事故後も町民の結束に寄与。
- ・原発事故という事態の中で、ふるさとのまとまりをつなぎとめようとする奮闘ぶりにエールをおくりたい。
- ・全町民の避難後も、浪江町民の「きずな」を示すテーマのひとつとなっている。
- ・浪江の御当地食「なみえ焼そば」の活動は青年部を中心に実践されており、今後も復興の中核活動として、関心が集まっている。
- ・大堀相馬焼の皿に盛られる地元食としても、地域の人々に愛され続けていた焼そばであり、引き続き青年部の熱意に振興活力を期待する。（大堀相馬焼はご当地の伝統的焼物）
- ・八戸に比べれば、活動歴も浅く、実績も小さいが、震災後誰も住めないまちとなってからも、避難先からB-1グランプリ等様々な活動に涙ぐましい努力をしている。

## おらが湊鐵道応援団

茨城県ひたちなか市

### 概要

平成19年に自治会、商工団体等により設立。廃線の危機にあった海浜湊線の存続・利用促進活動において中心的役割を担い、存続に導いた。湊線の利用促進活動、沿線の環境美化活動、広報や情報提供、鉄道を活かしたまちづくりの推進等を実施し、利用者の増加を実現した。東日本大震災後により湊線全線に被害があったが、募金を呼びかけるなど、運行再開を支援した。



### 評価された点

- ・官依存になりがちな地域の基盤維持を、民主導で行う自立精神を評価。
- ・鉄道の利用促進だけでなく、鉄道を活かしたまちづくりなど活動は多岐にわたり、約2200名もの会員が活発に活動している。
- ・震災の影響で運休していた湊線の運行再開について、情報発信や義援金の募集などの活動は、復興に大きく貢献したと評価できる。
- ・単なる鉄道ファンの集まりではなく、沿線の街づくり活性化を明確な目的にしている。震災後の鉄道復旧支援も評価できる。
- ・鉄道は地域の要。存亡の危機を乗り越えて、存続させている住民力は評価できる。
- ・第三セクターの鉄道経営は困難が伴う中、ひたちなか市は交流活動との連携等にも力を注ぎ、多くの市民が鉄道を支えて来ていた。継続運行を含めて地域再生に向けて、市民と鉄道ファンのみならず、多くの応援団の活動範囲を幅広くアピールして、地域づくりの輪を強化してほしい。

## 取手アートプロジェクト実行委員会

茨城県取手市

### 概要

平成3年の東京芸術大学の取手キャンパス開設を機に、市が大学、市民と連携したアートプロジェクトを立案。全国から作品を募集する「公募展」や取手在住作家の活動を紹介する「オープスタジオ」を隔年で開催している。平成22年度からは通年のプロジェクトも展開し、生活環境に芸術を取り入れる都市環境整備を行うなど、「取手＝アートの街」としての広報発信を続けている。



### 評価された点

- ・アートをキーワードとして、地域の幅広い住民の参加を果たしているところに特徴がある。
- ・アートによるまちづくりの参考となる事例。これからのさらに注目したい。
- ・アートのチカラをまちづくりに活かす手法と多くの市民が参加している点は、高く評価できる。
- ・展覧会後の調査で、市内団地の入居率がUR東日本エリアにおいて1位になるなど、実際に地域社会に具体的な成果が表出している点においても素晴らしい取り組み。



## 八王子センター元気

東京都八王子市

### 概要

平成14年9月に八王子市が高齢者の社会参加を活性化するため「高齢者活動コーディネートセンター」を開設することを決定し、同センターを運営する母体として、「八王子ボランティアネットワーク」に所属する有志により「八王子センター元気」が発足した。講師やボランティアの新規コーディネート成約数は22年度で121件、講師登録者数は約350人に上る。

### 評価された点

- ・都内での高齢化が著しい中で、生きがいづくり、仲間づくりができるプラットフォームの存在は、大きな役割を持っている。
- ・永年培ってきた経験や特技を持った高齢者に、居場所と出番を与えてあげることがすごく大事。



## 十日町市地域おこし実行委員会

新潟県十日町市

### 概要

平成16年の中越地震をきっかけに9世帯から6世帯にまで減少し廃村になりかけた集落であったが、6年間で延べ2,000名を超えるボランティアが集落を訪れるようになった。その後、「集落の存続」を目標とした様々な活動の結果、ボランティアとして集落を訪れていた2名の女性が新たに移住してくるなど、後継者候補が増えてきている。過疎地域の再生モデルとして期待される。



### 評価された点

- ・数多くの過疎対策の中で、被災地が具体的に回復していく先進的事例として評価。
- ・中越地震以降、ボランティアの受け入れ団体として、震災復興に取り組み、その後、集落機能維持や都市住民との交流を通じたイベントの開催など地域の活性化に貢献していることが評価できる。
- ・災害後のボランティア受け入れ団体から地域づくり団体へと進化。国際協力NGO「JEN」からの自立も評価できる。
- ・中越地震の影響もまだ終わっておらず、このような息の長い取り組みは評価できる。
- ・東日本大震災においても、一つのモデルとなる。

## 全日本大学女子野球選手権大会魚津市実行委員会

富山県魚津市

### 概要

「全日本大学女子野球選手権大会」は昭和62年の第1回大会から数え、今年で25周年を迎える。平成14年に連盟事務局であった洗足学園魚津短期大学が閉校となり大会継続が困難な状況に陥ったが「開催は発祥の地である魚津市しか考えられない」との思いに応え、会長を魚津市長とした組織に改編した。今や「マドンナたちの甲子園」とも称されている。



### 評価された点

- ・長い伝統と、女性スポーツ選手が活躍できる機会を作ってきたことは、評価出来る。なでしこに続いて、地域おこしにつながる。
- ・女子スポーツ振興への貢献を評価。
- ・女子スポーツ振興の重要性と社会ニーズの高まりがあるとは言うものの、継続的な活動支援が地域づくりとして難しいと言われている。25回に渡る取り組みは、市民の誇りにも結び付き、世代を越えたスポーツ活動として確立されている。
- ・今後も3世代、4世代を結ぶ市民活動として、大きな期待を寄せたい。

## 特定非営利活動法人 田原菜の花エコネットワーク

愛知県田原市

### 概要

農業委員、菜の花エコボランティアなどの発起人10名が会員を募り、平成18年にNPO法人を設立。菜の花を栽培することによる遊休農地解消事業として過去5年間で31か所52,600㎡の菜の花畑を担い手農家に引き渡すほか、市内約50か所の菜の花畑を栽培管理することで観光振興にも大きく貢献している。搾油用菜の花から菜種油「たはらっこ」を生産販売している。



### 評価された点

- ・遊休農地に菜の花を植えて、景観を創造するとともに、農産物展開の事業を推進している。菜の花を地域資源、ブランド化した、今後の範となる事例。
- ・遊休農地の解消という難しい問題を、“菜の花”と結びつけて、具体的な成果につなげている点を評価。

## 被災地NGO協働センター

兵庫県神戸市

### 概要

「阪神大震災地元NGO救援連絡会議」の分科会が母体となり、阪神・淡路大震災における失職者支援・全国各地での災害救援活動を行っている。東日本大震災発生時にはいち早く現地に入り、中長期的な支援活動を実施。特に避難所での「足湯」ボランティアや、手縫いのハンディクラフトを作成・販売し、被災者の収入につなげる「「まけないぞう」事業」は、他に例のない取組である。



### 評価された点

- ・中間支援組織として、長年にわたり活発に活動されていることが評価できる。
- ・東日本大震災において、被災者とNPOを繋ぐ重要な役割を担っている。
- ・阪神大震災の経験を生かすべく、東日本大震災復興に積極的に関与。「まけないぞう基金」における経済的支援も評価できる。
- ・阪神淡路大震災の教訓を、見事に実地に生かした点を評価。被災者の自立に向けた具体的取組みは特筆すべき。
- ・阪神淡路大震災の時はもちろん、それ以後も災害の度に大きな役割を果たしている。地域間、災害間の支援をつなげて行く結節点の役割も果たしており、高く評価できる。
- ・K O B E の経験が、今回の東日本大震災の支援活動に確実に活かされており、その独自性、自主性等、すべての面で優れた活動であると評価する。

特定非営利活動法人 豊かな食の島 岩城農村塾

愛媛県上島町

概要

岩城島の農業に危機感を持った、1ターン農家や島の中心的な農家が、荒廃地を解消し、農家の後継者を維持するため設立。6組の農業者を県外から迎え、農地再生を行い、島の一次産業に貢献している。また、レモンなど島の特産品を全国の販売イベントに出品してPRし、都会への販路の拡大を図っている。



評価された点

- ・ 経営力ある農家の育成に尽力されている。
- ・ 人材活用のおもしろみがある。



株式会社 赤岡青果市場

高知県香南市

概要

産地市場として、地域で生産された農産物の受託販売を実施している。早朝集荷システム、営農指導、パッケージ加工の実施、全量セリ販売、奨励金制度等を行い、農産物の品質向上及び安全・安心の確保と農家の所得向上に取り組む。取扱額90億円以上を維持し、農産物の重要な流通拠点となっている。また、従業員60名を抱える地場産業として地域に雇用を生み出している。

評価された点

- ・ ずっと継続して、農家生活を豊かにするさまざまな取り組みを展開している。取り扱い額も90億円以上と多く、ソーシャルビジネスの成功例として各地の範となる事例と史料。
- ・ 高齢化する地域農家を支えるしくみを次々と生み出し、中山間地域のモデル事業を構築した。





## 到津の森公園市民ボランティア森の仲間たち

福岡県北九州市

### 概要

「到津の森公園」の前身である「到津遊園」は、昭和7年の開園以来、北九州市や近隣市町村の住民に親しまれてきた。平成10年当時の経営者であった西日本鉄道株式会社が経営悪化を理由に閉園を発表したが、52団体・26万人の存続要望に応え、北九州市が施設を再整備し、動物のいる公園として引き継いだ。14年3月市民ボランティア組織「森の仲間たち」が園での活動開始。



### 評価された点

- ・地域住民による公園（動物園）運営参加が地域づくりに成果をあげていることに特色がある。
- ・多彩な活動を通じて、利用者（特に子ども）に命の大切さや自然環境の保護保全に対する意識の醸成、環境に配慮した行動の喚起など青少年の健全育成に貢献している。
- ・全くの市民独立型のボランティア活動で、10年以上維持している点が評価出来る。
- ・採算性がすべてではない事を学習できるモデルケースとしても活用できる。

## 財光寺農業小学校

宮崎県日向市

### 概要

地域の農業経験者を「先生」として、農業体験を通して自然の仕組み・農業の役割・農業者への畏敬の念を教えるとともに、自ら土に触れ、汗を流して生産し、収穫する喜びを実感させることで、思いやりや優しさの情操を養うことを目的として、平成21年4月に「農業小学校」を開校した。毎週第1・3土曜日を登校日として設定。23年度は合計6校の小学校から募集を行う。



### 評価された点

- ・農業を通してシニア世代と子ども達や、支援する地域スタッフの交流が図られている。
- ・九州では初の取り組みであり、近隣の小学校にも取り組みが広がっていることが評価できる。
- ・シニア世代の生きがいづくりに繋がっている。
- ・農業に元気を与える取り組みとして、評価したい。シニア世代の「生きがい」作りとしても注目。
- ・幼年期の自然体験と地域の農業体験者との交流は、重要な「故郷力創造」の力となると思われる。
- ・将来的には、こうした活動例を全国に広げる中核拠点にもなり得る地域づくりであり、環境が地域人のテーマとなる現代社会における、地域教育、地球人教育として期待したい。

## 宮古織物事業協同組合

沖縄県宮古島市

## 概 要

宮古島に400年以上受け継がれている伝統工芸品「宮古上布」を継承するため、原料生産者、糸積み従業者、織り子によって昭和42年に設立。原料生産から上布の製作、販売、技術の継承、広報活動を行っている。伝統工芸品認定、国重要無形文化財認定、商標登録取得を果たし、東京での物産展等に参加するなど県内外にPRの場を増やしている。



## 評価された点

- ・地域の伝統文化を継承する取組みとして高く評価。
- ・時間はかかるだろうが、裾野をさらに広げてほしい。



## 岩手県一関市

### 概要

東日本大震災津波で被災した陸前高田市、大船渡市及び宮城県気仙沼市に対し、物資、人材、医療等の支援活動を展開し、復旧及び復興に寄与するとともに、避難所の提供や被災者向け住宅の提供等を行い、被災者の生活再建支援に尽力した。一関市が行っている被災地支援は、隣接する平泉町及び藤沢町と共同で実施しており、一関市はその中心的な役割を担っている。

### 評価された点

- ・東日本大震災直後から被災地の復旧・復興とともに、被災者の生活再建支援に大きく寄与している。
- ・地域の協力を得て、避難した人の要介護度や就労相談希望の有無など様々情報を収集し、きめ細やかな支援を活動に活用しているところが評価できる。
- ・被災者の可及的対応、情報収集等、主だった復旧、復興再生のための再建支援活動は、一関の底力を発揮させ、「人」が現地現場で直接活躍することにより、独自に細やかに活動された。
- ・これまでの様々な主体が中心となった地域活動が盛んであった故に、実行体制でのネットワークとして、活躍実践されたと言える。
- ・今後も被災地と共に東北復興の中核地としての活動を期待し応援したい。



## 岩手県住田町

### 概要

東日本大震災発生後、陸前高田や大船渡の両市を中心に、給水支援や職員の派遣、支援物資の配布などをいち早く開始したほか、町職員と婦人消防協力隊の炊き出しによる避難所等への食事提供を実施した。アメリカの救援隊や自衛隊等の活動拠点として学校敷地を開放し、また、町の木材を使った全国初の木造一戸建仮設住宅を建築するなど、独自の支援活動を展開した。



### 評価された点

- ・被災地でありながら、独自の支援活動を展開した点を高く評価したい。
- ・いち早く被災者のニーズに対応した取り組みが、震災からの復興に大きく寄与した点と、木造仮設住宅をまちの重要な産業である林業振興と接続させたことは評価できる。



## 宮城県大崎市

### 概要

温泉地という特性を活かし、東日本大震災の被災者延べ10万人を、市内の宿泊施設（ホテル・旅館等）に受け入れ、避難者の身体的・精神的健康状態の維持に寄与した。また、「災害対策本部」とは別に「沿岸地域等避難者受入本部」及びその下部組織として「避難者受入現地本部」を設置し、保健師や生活相談員の巡回、支援物資の配達などを行った。

### 評価された点

- ・温泉など、地域の資産をいち早く支援に役立てたことを評価。
- ・被災地に近い立地での役割を良く認識して、温泉を有効に活用して、心のケア、身体的ケアに尽力したことを評価。



## 宮城県川崎町

### 概要

東日本大震災後の早い段階から被災の大きかった石巻市民の二次避難所として、町内の宿泊施設（青根温泉・笹谷地区）への受け入れを表明。町建設職組合や食生活改善クラブ、みちのく公園、青根温泉会社、町商工会、社会福祉協議会など多くの町民が「何か出来ることはないか」と志を一つにし自主的に参画の輪が広がり、連携しながら支援活動を展開してきた。

### 評価された点

- ・避難者の精神的ストレスを和らげるため、交流会、夏祭り等、避難者と地元住民との交流を図るイベントを多数開催したことを評価。
- ・二次避難者受入を機に、地域での新たなボランティア団体や法人同士の繋がりができており、今後もこうした団体を軸として、継続的な地域づくり活動が期待できる。



## 東京都江戸川区

### 概要

熟年者（高齢者）の健康保持及び仲間づくりを促進するため、社交ダンスのステップを熟年者用にアレンジした江戸川区独自の「リズム運動」が誕生して31年。毎年6月に約5,000人が参加する「リズム運動大会」、11月に約3,500人が参加する「リズム運動地域交流会」を開催。江戸川区の介護保険第一号被保険者認定率は23区で最も低いなど介護予防にも効果をあげている。

### 評価された点

- ・ 31年間の地道な取組みが、健康な地域づくりにつながっている点を評価。
- ・ 都心部での高齢者の地域コミュニティーを作るのに、ダンスを上手に利用し、仲間づくりと健康増進に効果を上げることができた。



## 静岡県富士宮市

### 概要

バス路線が廃止された交通空白地域と中心市街地をデマンド（予約）型乗合タクシー「宮タク」で結ぶとともに、中心市街地周辺のショッピングセンター、医療施設等を循環する「宮バス」を運行。「宮バス」はバス停オーナー制度（ネーミングライツ）を導入し、地域の企業が公共交通を支える。路線バス衰退の理由を分析し、地域の意見を組み入れつつ、持続可能な公共交通の運営を行う。

### 評価された点

- ・ モビリティ・マネジメントは、地域課題を解決する鍵を握っていると言える。車社会とは言っても、社会との繋がりを車のみに頼れない高齢者や通学・通勤者にも不可欠であり、増大傾向にある。環境問題からも、この課題解決は、各々の地域に合った形でしくみづくりを考える必要があるといえ、開発手法は貴重な実証例となると思われる。
- ・ 一見地味だが、外部コンサルの協力を一切受けず、行政、事業者、住民の連携による「バス停オーナー制度」の導入等は、他地域に見られない独自の地域活性化策である。



## 新井 偉夫

宮城県石巻市

## 概要

川を通しての自然活動に尽力し、「NPO法人ひたかみ水の里」を設立。子ども達に川の自然を肌で感じてもらう自然体験塾「めだかつクラブ」をはじめ、地元の小学校での総合学習事業への出前講座「川の学校」や自然体験を行う大人のための育成塾「リバーマスタースクール」を開催。その他、海の学校や教員10年目研修の自然体験など幅広い活動を展開。

## 評価された点

- ・企業の本来業務と地域貢献活動を渾然一体として取り組む姿勢は先進性があり、今後企業のあり方のモデルとなる。
- ・経営者としてのリーダーシップはもとより、地域のニーズにマッチした手作りの貢献事業により地域住民の信頼を得ており、行政機関からも頼られる人物。子育てへの支援は、他地域へのモデルケースになる可能性がある。
- ・住民ひとりひとりの居場所と出番づくりを展開し地域貢献につながった成果を評価。身近なところから取り組んでいるところがいい。
- ・補助金やスポンサーに頼らず、自らの会社に収益を使い、会社を開放し、自律した活動をビジネスとリンクさせているところが評価できると共に、非常に多岐にわたる企画を消化しており、地域活動に対する意欲というものを強く感じる。



## 松井 利夫

神奈川県相模原市

## 概要

昭和46年に有限会社アルプス技研を創業し、平成16年に東証1部上場。平成9年頃から個人資産を投入し、「エンゼル投資」を行ったり「松井奨学金」を設立するなど積極的に起業家支援に取り組む。平成18年にNPO法人ふれあい自然塾を、平成19年に財団法人起業家支援財団を設立し、地域産業の活性化だけでなく地域の人づくりに大きく貢献している。

## 評価された点

- ・企業家の立場から、地域づくりの応援団を継続して実践し、自らの私財を投入して人材育成に取り組んできた姿勢は評価に値する。
- ・取組みがすばらしい。
- ・私財を投じ、起業家支援財団等を設立し、それらが成果を挙げている点は高く評価できる。



## 向峠 智隆

石川県能登町

## 概要

昭和62年柳田村当日公民館長への就任を契機に、地域に伝わる「猿鬼伝説」をモチーフに公民館を主体とした地域活性化の取り組みを開始する。柳田走ろう会等と連携し猿鬼伝説の舞台・岩井戸地区を走る「猿鬼歩こう走ろう健康大会」を開催。平成5年には「伝え残したい私たちの宝 猿鬼伝説」を発刊。猿鬼伝説は地元ワインのネーミングにも使用され売り上げに貢献している。



## 評価された点

- ・地域の資産のひとつである伝統を維持するだけでなく、広汎に活用していることを評価。
- ・長い地域づくりの実績とともに、伝承文化に注目し、そのコンテンツを核に、地域をまとめあげてきた。
- ・地域に伝わる民話を掘り起こし、それらをスポーツ大会と連動させ浸透させる手法は面白い。
- ・ワイン等の波及効果も生み出しだしている点も、地域づくりの観点から評価できる。



## 高橋 幸照

三重県多気町

## 概要

農村の景観、生物の多様性の喪失に危機感を抱き、地域資源を活かしたまちづくりを目指して、地域の自然・生物の保全活動、またそのための各種組織の設立を行う。荒廃田を利用したビオトープ整備、演劇による地域振興、農事法人の設立など、幅広い活動により、20年近く地域づくりのリーダーとして、農村文化の保護や地域資源の活用による地域づくりに取り組んでいる。



## 評価された点

- ・農村の生産活動のみならず、広汎な地域の発展を目指した活動に展開していることを評価。
- ・農村法人の設立や、あじさいいっぱい運動、ビオトープづくりなど、農村文化を守るための複合的な取り組みを長年継続している。
- ・住民の主体性を引き出した活動は高く評価される。



## 安川 恵造

兵庫県太子町

## 概 要

視覚障害者の伴走、伴歩を行う「カンパイグループ」、高齢者施設、幼稚園、公民館等で演劇ボランティアを行う「バカボン一座」等、地域住民の健康と生きがいづくり活動を行う。高齢者大学で学んだ知見を活かし、住民の多様なニーズに視点をあてた数々の新たなグループの立ち上げに尽力。高齢者の主体的なボランティア活動の受け皿となり、地域活性化に成果をあげている。



## 評価された点

- ・健康づくりから文化、スポーツなど地域住民の多様なニーズを受け、数々の活動グループの立ち上げに尽力し、活発に事業を展開していることが評価される。
- ・安川氏がリーダーシップをとる活動への参加住民は、約1万5千人にも上り、地域の活性化に寄与している。
- ・様々な地域活動を組織し、「ご近所のネットワーク」を強固にした取組みを高く評価。





## 概要

出雲市では平成17年に「21世紀出雲芸術文化のまちづくり条例」を制定し、芸術文化によるまちづくりを目指し、「出雲芸術アカデミー」を創設した。「教育・研究・演奏」を三位一体とする活動を理想とし、それを実現するための機関として、人材育成活動を行う「音楽院」、学術研究活動を行う「音楽研究院」、演奏活動を行う「出雲フィルハーモニー交響楽団」が設けられている。

## 評価された点

- ・芸術・文化を支える基盤が薄くなりがちな社会経済状況である。そうした中で、永年地域づくりとして伝統的文化活動から現代文化まで、幅広く積み重ねられて来た成果が、人材ストックとしても当地に厚みを増している。
- ・今後も是非重要な活動の支援の輪を広げてほしい。

